

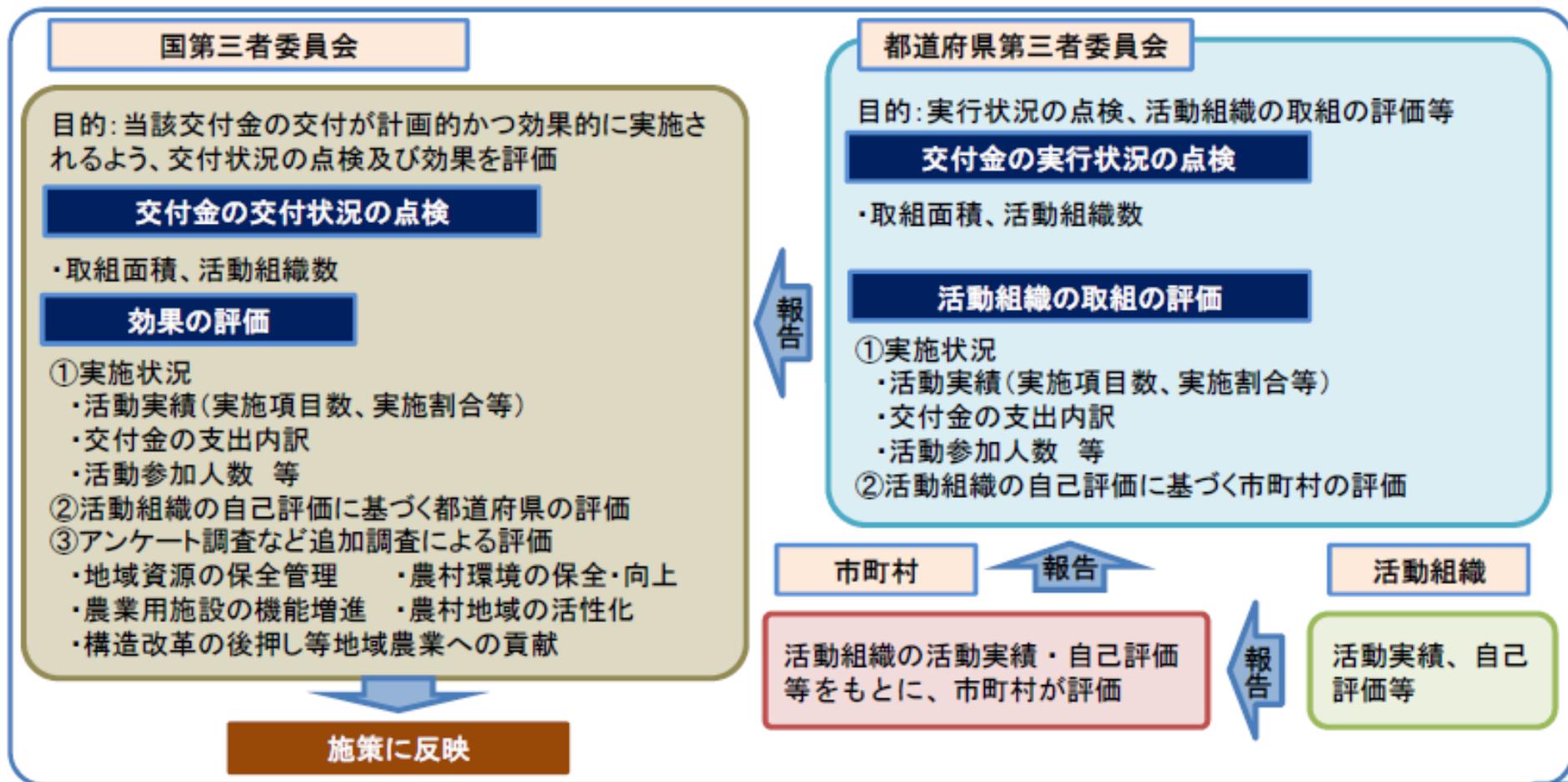
多面的機能支援事業 中間評価書(案) 【概要版】

平成28年11月
埼玉県農林部
農村整備課



1 中間評価における第三者委員会の役割について

- 都道府県では、日本型直接支払推進交付金実施要綱に基づき、
ア) 交付金の実行状況の点検、イ) 活動組織の取組の評価等
を行うことを目的として、第三者委員会を設置することとされている。
- 県は、活動組織の自己評価に基づく市町村評価の報告も参考に評価を行い、県の第三者委員会に意見を諮る。
国は、各都道府県の評価結果も踏まえ評価を行い、国の第三者委員会の意見を諮り施策に反映する。



2 評価の視点と調査方法について①

目的

多面的機能の維持・発揮

構造改革の後押し

(担い手農家への農地集積)

5つの評価視点

地域資源の保全管理

農村環境の保全・向上

農業用施設の機能増進

農村地域の活性化

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

- 中間評価は、「地域資源の保全管理」、「農村環境の保全・向上」、「農業用施設の機能増進」、「農村地域の活性化」及び「構造改革の後押し等地域農業への貢献」の5つの視点で評価
- 調査方法は、平成28年度活動組織調査(90組織)、平成28年度多面的機能支払交付金の効果等に関するアンケート調査(90組織)による

【評価区分】

- ほとんどの組織で効果が発現している、又は、発現が見込まれる
(全体の8割程度以上で効果が発現している、又は、発現が見込まれる)
- 大半の組織で効果が発現している、又は、発現が見込まれる
(全体の5割程度以上8割程度未満で効果が発現している、又は、発現が見込まれる)
- 一部の組織で効果が発現している、又は、発現が見込まれる
(全体の2割程度以上5割程度未満で効果が発現している、又は、発現が見込まれる)
- 効果の発現が限定的である、又は、発現の見込みが限定的である
(全体の2割程度未満で効果が発現している、又は、発現が見込まれる)

2 評価の視点と調査方法について②

【評価視点】

地域資源の保全管理

農村環境の保全・向上

農業用施設の機能増進

農村地域の活性化

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

(1) 地域資源の保全管理

① 農地の保全管理

効果項目	評価			
	a	b	c	d
遊休農地の発生や面積拡大を抑制	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病害虫の発生やゴミの不法投棄等の抑制により、営農への支障が低減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
農用地での鳥獣被害が抑制	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
農業者の保全管理作業に係る負担の軽減により、適切な保全管理が可能	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

② 農業用施設の機能維持

効果項目	評価			
	a	b	c	d
農業用施設の機能が維持され、適切に保全管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
異常気象等による被害の拡大等の抑え、災害が発生した場合でも迅速な対応が可能	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
農業者による農業用施設の保全管理作業に係る負担が軽減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

③ 地域資源の保全管理体制の維持・強化

効果項目	評価			
	a	b	c	d
地域をまとめ、行動を起こすリーダーや役員が育成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
集落間や集落内で協力して行う取組や非農業者が参画する取組が増加する等、地域資源の保全管理のための体制が強化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(2) 農村環境の保全・向上

効果項目	評価			
	a	b	c	d
地域の景観が保全・向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地域の生態系や水質が保全・向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
伝統的な農業技術や農業に由来する行事、伝統文化の継承・復活	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
活動に対する関心や理解、協力意識が向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(3) 農業用施設の機能増進

効果項目	評価			
	a	b	c	d
施設の長寿命化の活動により、農業用排水路等の機能が増進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
長寿命化の活動に対する関心や理解、協力意識が向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
農業用施設の補修技術や知識が向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
農業者による農業用施設の日常の維持管理に係る負担が軽減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(4) 農村地域の活性化

効果項目	評価			
	a	b	c	d
地域ぐるみの関わりが増えて地域活性が高まり、地域コミュニティの維持・強化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
集落の枠を超えた話し合いや活動等が増え、集落間の交流が活性化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(5) 構造改革の後押し等地域農業への貢献

効果項目	評価			
	a	b	c	d
担い手農家等への農地集積に向けた取組が推進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
農業の担い手の育成が推進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
取組が契機となり、新たな生産品目の導入、経営の複合化、6次産業化等の取組が推進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大区画化等の生産基盤整備に対する意識の向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【県内の実施状況】

(1) 市町村数 : 42 割合 66.6% (42 / 全市町村数63 × 100)

(2) 活動組織数 : 269

(広域活動組織含む)うち農地維持支払	269
資源向上支払(共同)	193
資源向上支払(長寿命化)	72

(3) 取組面積 : 10,098ha

うち農地維持支払	10,098ha
資源向上支払(共同)	6,675ha
資源向上支払(長寿命化)	2,954ha

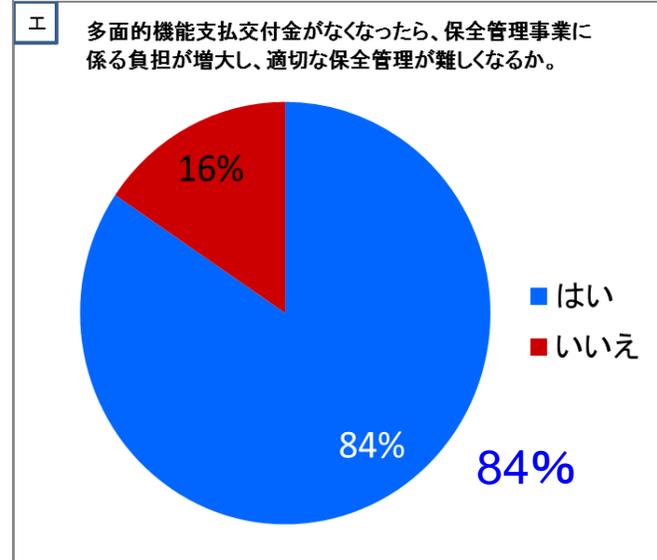
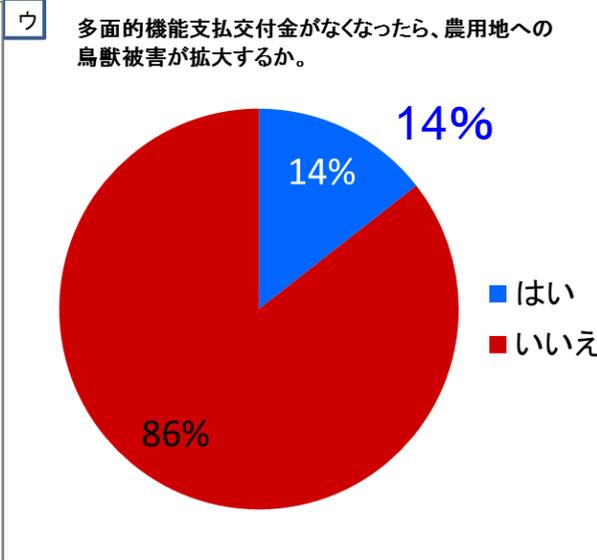
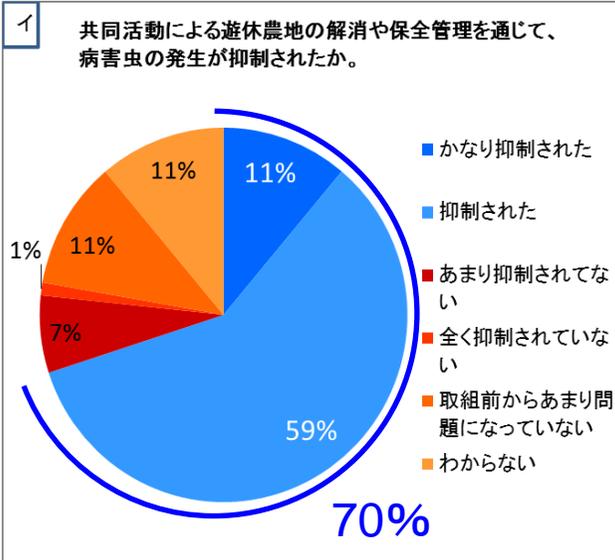
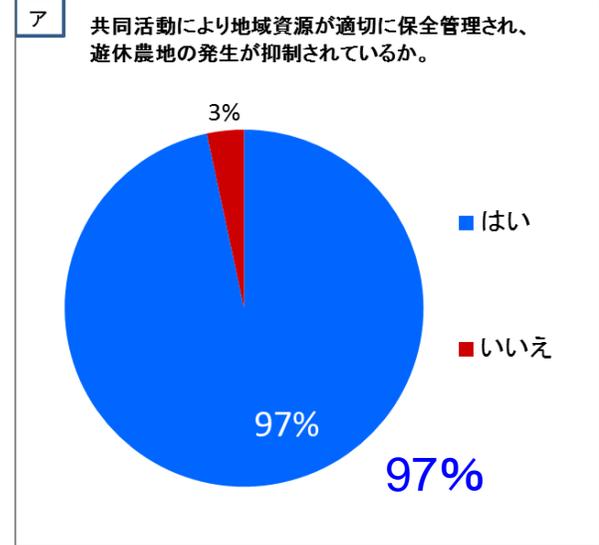
農振農用地(田畑)59,506haに対するカバー率: 17%

4 効果の発現状況 (1) 地域資源の保全管理 ①農地の保全管理

効果項目	評価			
	a	b	c	d
(ア) 遊休農地の発生や面積拡大を抑制	■	□	□	□
(イ) 病虫害の発生やゴミの不法投棄等の抑制により、営農への支障が低減	□	■	□	□
(ウ) 農用地での鳥獣被害が抑制	□	□	□	■
(エ) 農業者の保全管理作業に係る負担の軽減により、適切な保全管理が可能	■	□	□	□

取組活動により、ほとんどの活動組織で遊休農地の拡大抑制や適切な保全管理ができています。

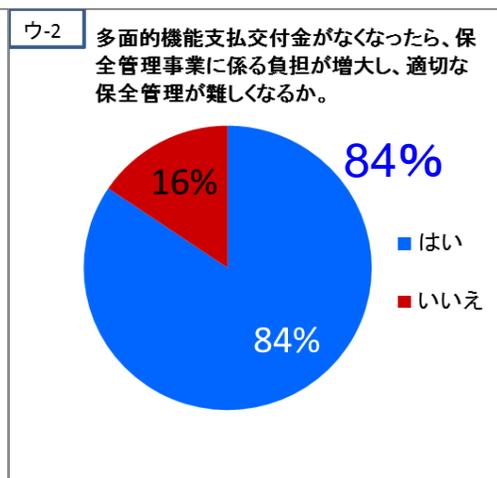
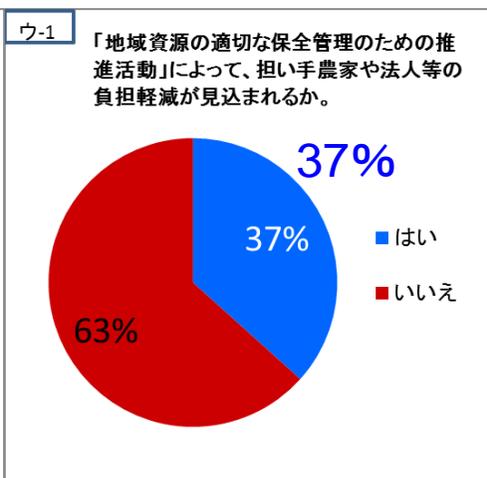
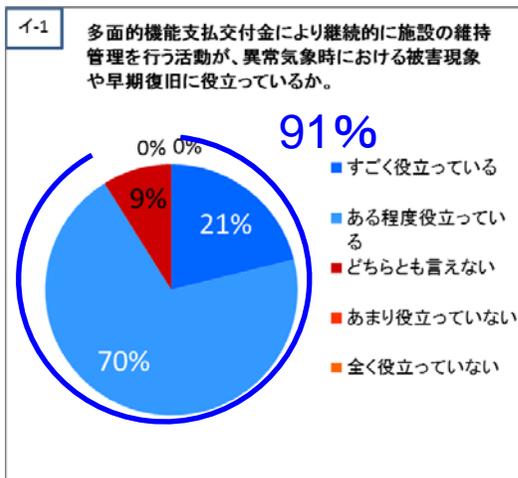
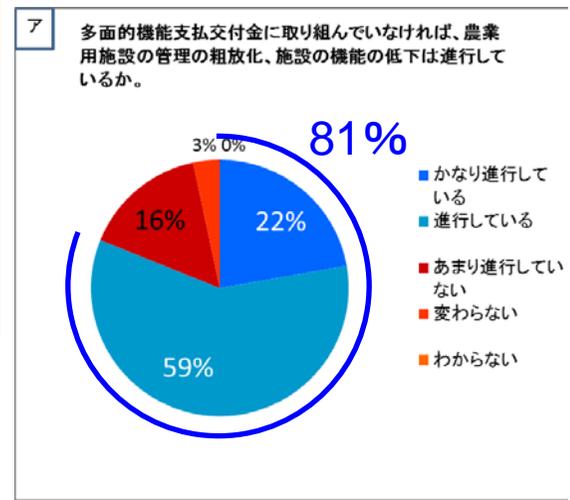
鳥獣被害については、被害の少ない平坦地で活動を行っている組織が多いため効果の発現の評価が低い結果となっている。



(1) 地域資源の保全管理 ②農業用施設の機能維持

効果項目	評価			
	a	b	c	d
(ア) 農業用施設の機能が維持され、適切に保全管理	■	□	□	□
(イ) 異常気象等による被害の拡大等の抑え、災害が発生した場合でも迅速な対応が可能	□	■	□	□
(ウ) 農業者による農業用施設の保全管理作業に係る負担が軽減	□	■	□	□

農業用施設が適切に管理されるとともに、異常気象時の対応も行われるなど、取組が農業用施設の機能維持に繋がっている。

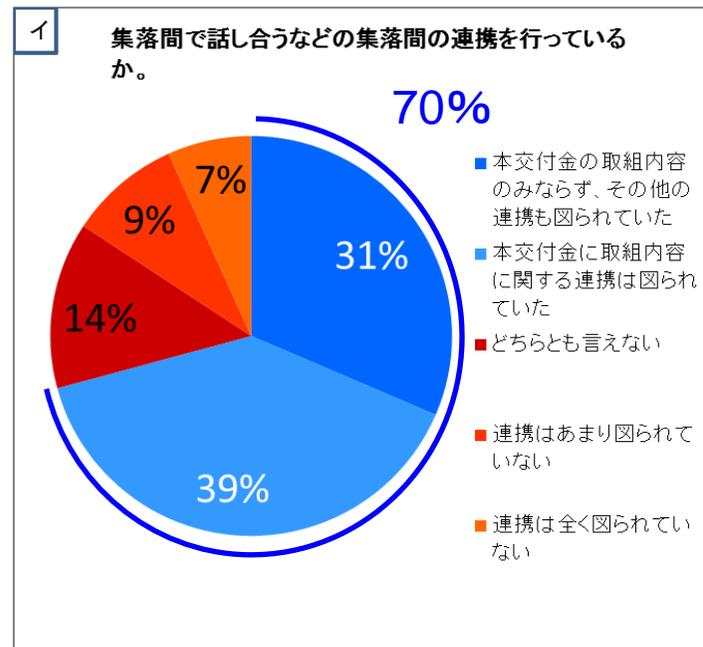
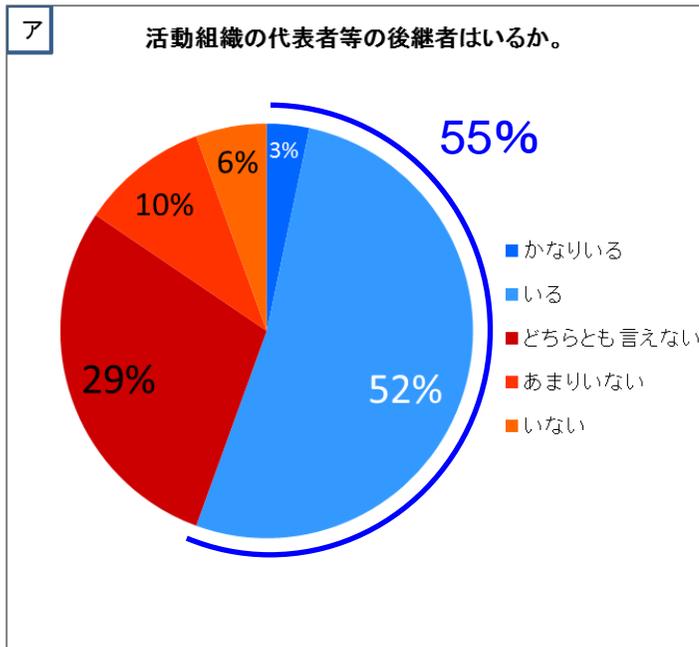


※「イ」、「ウ」の項目について、2つの調査結果により評価をし、「b評価」としました。

(1) 地域資源の保全管理 ③地域資源の保全管理体制の維持・強化

効果項目	評価			
	a	b	c	d
(ア) 地域をまとめ、行動を起こすリーダーや役員が育成	□	■	□	□
(イ) 集落間や集落内で協力して行う取組や非農業者が参画する取組が増加する等、地域資源の保全管理のための体制が強化	□	■	□	□

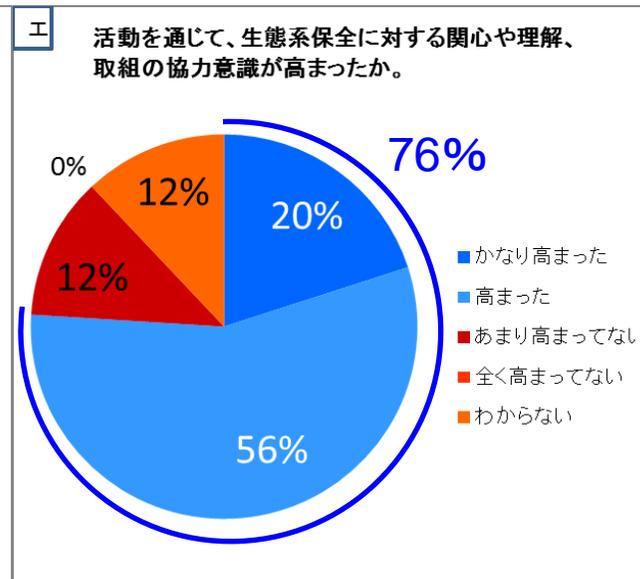
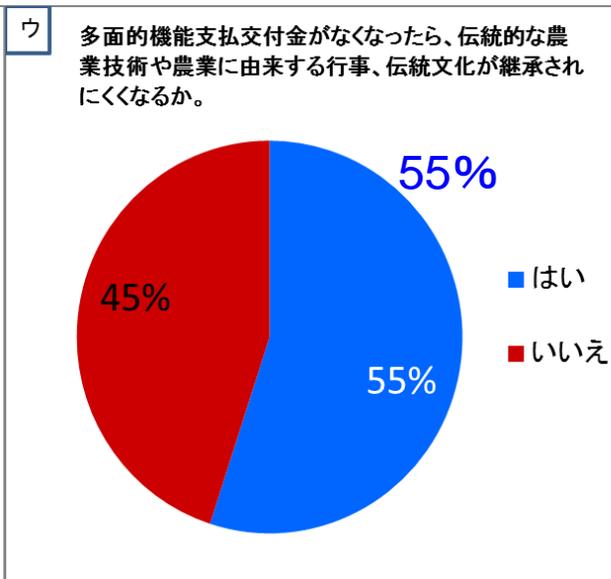
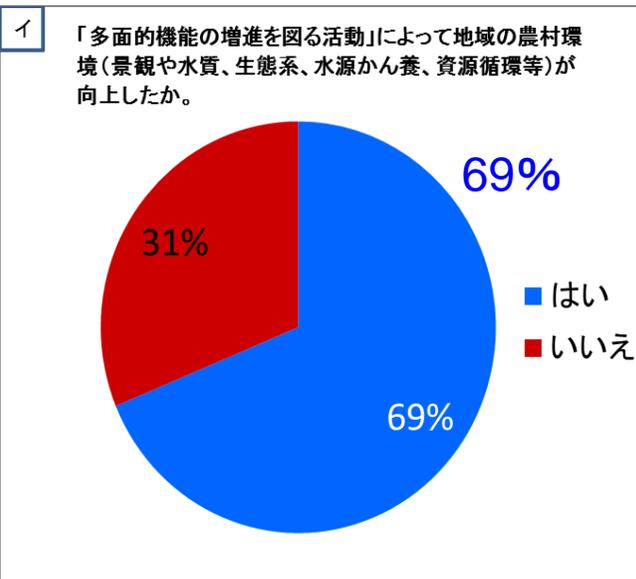
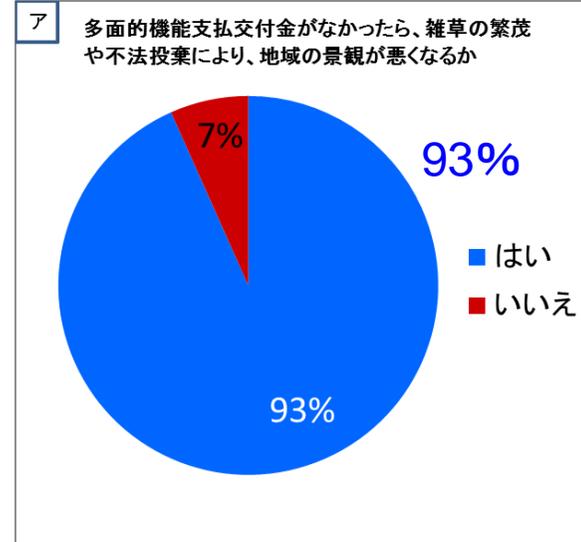
地域をまとめるリーダーや役員は半数の組織で後継者が育成されている。
 また、集落での話し合いにおいて、取組内容の連携が7割で図られており、保全管理体制の維持・強化の効果が表れている。



(2) 農村環境の保全・向上

効果項目	評価			
	a	b	c	d
(ア) 地域の景観が保全・向上	■	□	□	□
(イ) 地域の生態系や水質が保全・向上	□	■	□	□
(ウ) 伝統的な農業技術や農業に由来する行事、伝統文化の継承・復活	□	■	□	□
(エ) 活動に対する関心や理解、協力意識が向上	□	■	□	□

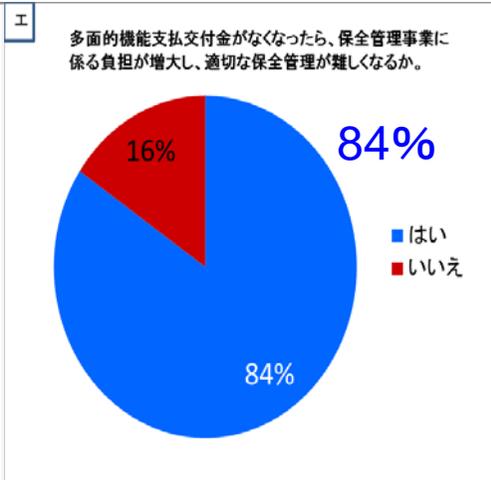
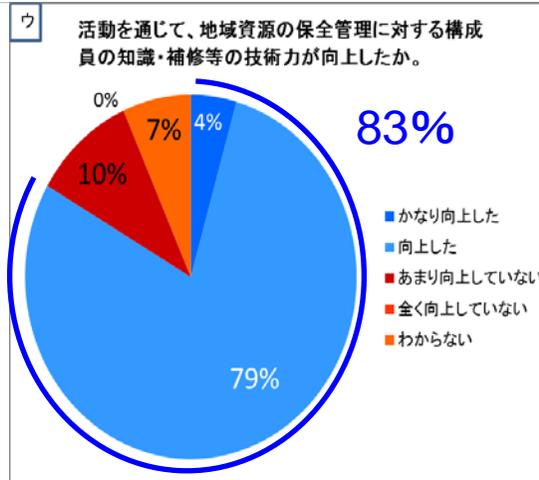
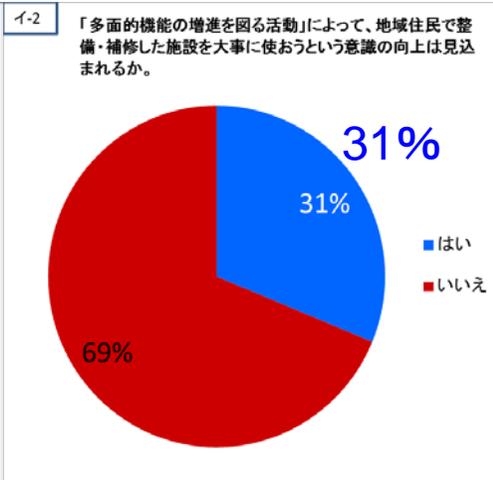
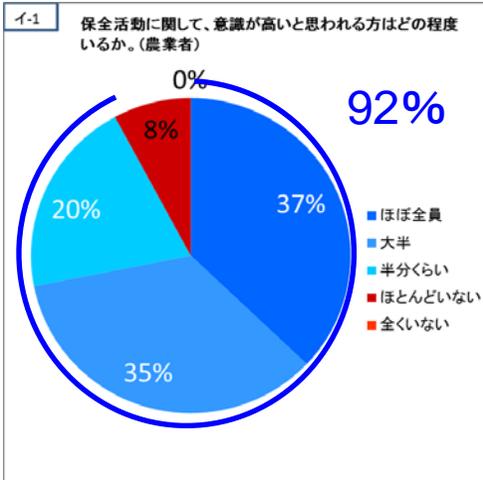
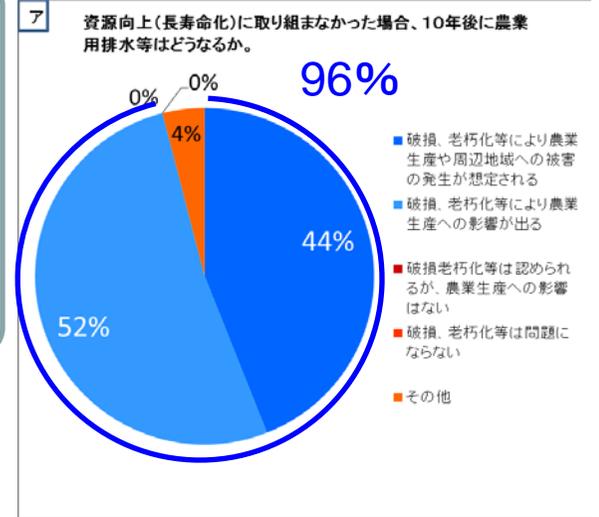
取組活動において、地域の状況に応じた農村環境の保全・向上活動が行われ、地域の意識向上に繋がるとともに農村環境の保全・向上に繋がっている。



(3) 農業用施設の機能増進

効果項目	評価			
	a	b	c	d
(ア) 施設の長寿命化の活動により、農業用排水路等の機能が増進	■	□	□	□
(イ) 長寿命化の活動に対する関心や理解、協力意識が向上	□	■	□	□
(ウ) 農業用施設の補修技術や知識が向上	■	□	□	□
(エ) 農業者による農業用施設の日常の維持管理に係る負担が軽減	■	□	□	□

地域において農業用施設について関心が高く、積極的に活動が行われており、施設の機能の増進が図られている。

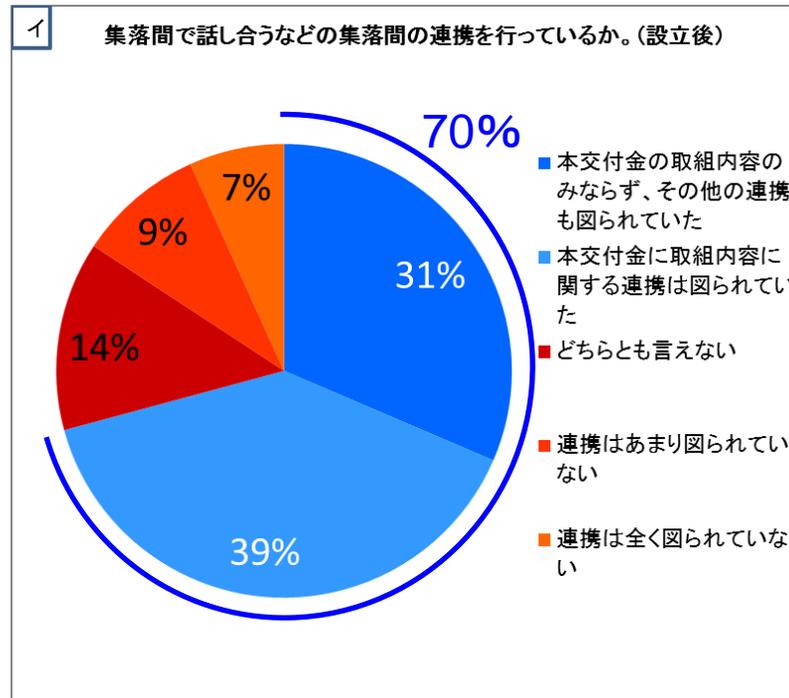
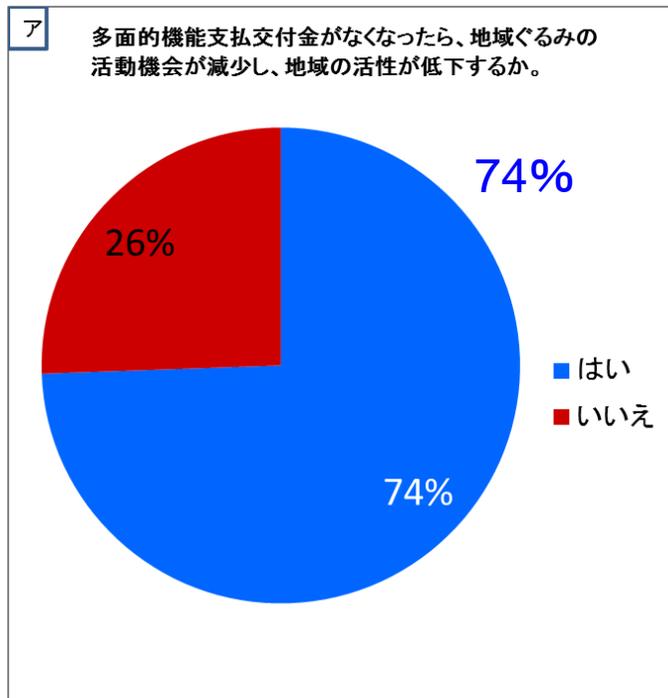


※「イ」の項目について、2つの調査結果により評価をし、「b評価」としました。

(4) 農村地域の活性化

効果項目	評価			
	a	b	c	d
(ア) 地域ぐるみの関わりが増えて地域活性が高まり、地域コミュニティの維持・強化	□	■	□	□
(イ) 集落の枠を超えた話し合いや活動等が増え、集落間の交流が活性化	□	■	□	□

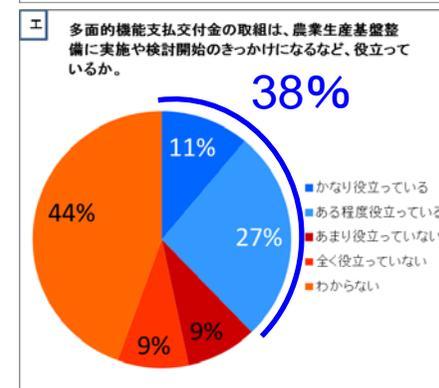
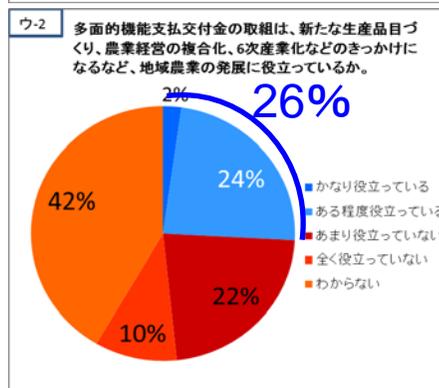
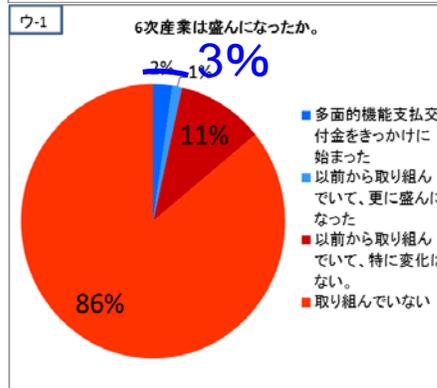
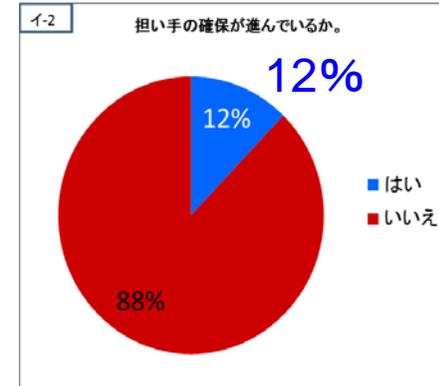
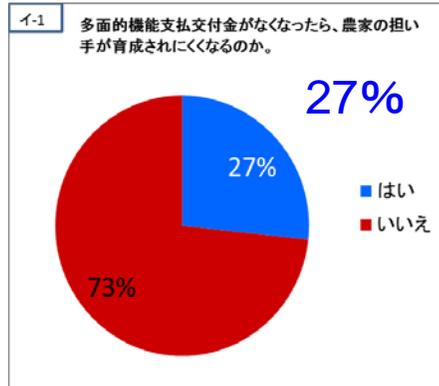
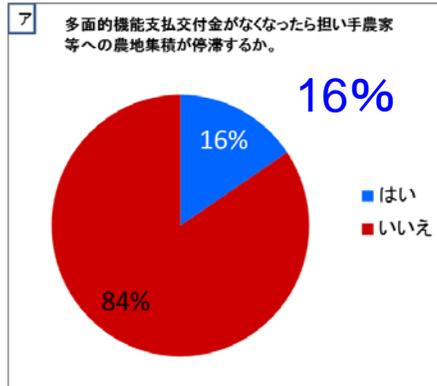
地域農業の継続的な発展の観点から地域が一体となって活動することより、農業者と非農業者の枠を超えたコミュニティ活動が定着し、地域の活性化に繋がっている。



(5) 構造改革の後押し等地域農業への貢献

効果項目	評価			
	a	b	c	d
(ア) 担い手農家等への農地集積に向けた取組が推進	□	□	□	■
(イ) 農業の担い手の育成が推進	□	□	□	■
(ウ) 取組が契機となり、新たな生産品目の導入、経営の複合化、6次産業化等の取組が推進	□	□	□	■
(エ) 大区画化等の生産基盤整備に対する意識の向上	□	□	■	□

地域の保安全管理に重点を置いて活動を行っている組織が多く、構造改革の後押し等、地域農業への貢献についての意識が少ない結果となっている。



※「イ」、「ウ」の項目について、2つの調査結果により評価をし、「d評価」としました。

5 現状の課題及び今後の取組方向

【現状の課題】

- 今回の中間評価の結果、
本制度の実施により、評価視点5つのうち、
【地域資源の保全管理】、【農村環境の保全・向上】、【農業用施設の機能増進】、【農村地域の活性化】
の4項目について、一定の効果が発現している状況が把握できた。
しかし、【構造改革の後押し等地域農業への貢献】については、効果の発現状況が低い状況となった。
- 本制度の効果(有効性)が確認されている中で、取組みを行っていない区域で、近い将来には多面的機能の発揮に支障が
でてくる可能性が高い。

【今後の取組方向】

- 積極的な推進を行い、取組面積の拡大を図る
・平成27年度 10,098ha(カバー率17%) → 目標:平成32年度 22,000ha(カバー率37%)
- ほ場整備事業や農地中間管理事業と連携した事業推進
・構造改革の後押し等、地域農業への貢献といった本制度の目的からも当初からほ場整備事業等と連携した推進が必要
- 新規検討地域や継続活動組織へのPR・支援
・新規検討地域へのPRだけでなく、継続活動組織へのPR・支援も積極的に行う。
多面的機能支援推進会議のホームページを活用し、以下の項目を掲載し、支援する。
県内の優良活動組織の表彰事例
県内で実施している全活動組織の活動事例を紹介
・研修会の開催
多面的機能支援推進会議において、優良先進地の視察や活動組織の広域化、管理活動(補修技術、安全管理)に
関する研修を開催する。

ありがとうございました。

